

牧師、バイカー、鮎職人として。。。シェア from LA 第25話「教会発足式、後編」

資材運搬用のアストロバンが壊れたままついに発足式当日を迎えた。ひたすら祈りつつ朝からあちこち電話をしたが、乗用車ならともかく日曜の朝っぱらからトラックやバンをチャーター出来る人などいない。もはやこれまでかと思い始めた時に1本の電話が鳴った。トムからだ。「どうだ？上手く行ってるか？何か出来ることはないか？」 事情を話したところ「じゃ今から俺が行く」と言う。「でもアンタの車は乗用車だろう？以前乗ったことがある。」と返すと、「いや、最近ホンダのオデッセイを買った。心配するな。」「え！？ホンマに！」 オデッセイなら人と物資を運んでも何の問題もない！

結局、彼が日本からのメンバーをクリスタル教会へ案内してくれたおかげで私はフリーとなり、発足式会場へ先に乗込みじっくり準備が出来た。と言うより、実はもしバンが壊れず私自らがクリスタル教会へ彼らを送っていたら発足式には間に合わなかったことが後になって分かった。神さまの不思議な導きに脱帽！さらに言えば翌日 LA で執り行われるシゲ子さんの葬式へもトムが迎えに来てくれて資材一式を積み込み運んでくれたので私は自分の奉仕に集中できたのだ。

さて先に現地入りした私はキーボードを運び込み椅子を並べて大忙しだが、開会時間が近づいてきてるというのに誰も来ない。「どうしよう。。。」もし誰も来なかったら赤っ恥もはなはだしい。一難去ってまた一難。そのうちにクリスタル教会へ行ったメンバーらがトムに送られ到着、持参したおにぎりを食べながら準備は続いたが、相変わらず人の出が悪くこのままでは閑古鳥。悶々と祈り続けたが突然、「やあ、こんにちわ〜」と一人の紳士が入って来た。「武尊さん！」だ。(22話参照)

何と彼は北 LA から往復200キロかけて駆けつけて下さった。とそこへ一人の男性がヌボーツと顔を出した。「Dr.馬場！」彼は私の歯医者さんで過去20年以上お世話になっているが教会には全く来ない。しかし「特別な日だから」と来てくれた。ちなみにこの2人が礼拝に来たのは後にも先にもこの一回きりだ。その直後イケメン白人青年が友人と共に現れた。彼の名はダスティン。もうずいぶん前に縁のあった人物で何と彼は南カリフォルニア最南端のSD(サンディエゴ)から往復400キロも車を飛ばして来てくれた。彼らのお陰で正に「南カリフォルニア」聖書教会の名に相応しい日となった。

そうこうするうちにゾロゾロと人が来始め部屋は一杯になった。「何だ??」と見てみると何と昨日会ったサドルバック教会の人たちだ。昨日 忙しい中 訪ねて行った甲斐があった！(24話参照) さらに彼らは他教会で奉仕している兄弟姉妹にも声をかけてくれたので様々な背景の人たちが集まった。式は順調に進み、その後はサドルバックのハワイアン・ミニストリーの人たちが踊りを披露してくれるなど式は3時間にも及ぶ“宴”となった。ちゃんと神さまは祈りを聞いてくださり私が思う以上に全てを祝福で満たして下さいました。いっぽうで私が招待状を出した人たちは殆ど来なかった。教会は人のやる気ではなく神の御心で動くことを思い知った。そのことが今も我が宣教の土台となっている。

「招待される者は多いが、選ばれる者は少ない。」 マタイの福音書22章14節

3-26-2020

